

## 令和3年度第1回岡崎市観光基本計画推進委員会 議事録概要

1 日 時 令和4年3月4日(金)(書面開催)

2 書面送付委員(敬称略)

高橋一夫、山中賢一、新家智明、氏原久元、田下貴幸、竹内博剛、西尾孝志、  
野村顕弘、天野裕、長瀬正明、竹本佳恵、青木鉄彦  
オブザーバー 榊原仁、初井泰晴

3 議事要旨

(議題1)岡崎市観光基本計画アクションプランの進捗状況について【資料1、2】

【資料1】アクションプランに掲載されている各施策の進捗状況について示した資料です。取組のある年度は色付きのセルになっています。今年度の取組の中で特に伝えるべき点は、各セルに記載があります。

【資料2】アクションプランに掲載されている重点プロジェクトの実施状況について示した資料です。今年度の取組と、来年度の取組予定について、画像付きで解説しています。

施策の実施状況、取組内容等について御意見をお願いいたします。

### 観光マーケティングのためのデータ分析

データ収集はアンケートだけでなくリーサス、スマホの位置情報の購入などデータを重ねながら分析をすることが求められる時代になってきました。アンケートはデジタルデータだけでは入手できない「どのような目的で岡崎を訪れたのか」「消費額はいくらであったのか」などを確認するようにする。なかなか観光客の足を一定時間止めてアンケートを取ることが難しくなってきたため、複数のデータ入手がしたい。

データ分析ができない、ということではいけない。データを取りやすくなってきた時代にあって、これからは、自治体職員はデータを分析する能力が求められる。政策を考えるにあたって、多分こうだろうが許されなくなってきたからである。また、特定の人物だけに分析をさせては、その人間の整理に皆が引きずられていってしまう。「分析できる能力」は観光にのみ必要ではないのだから、市職員はデータ分析ができるようにならないといけない。

### 資料2

・重点プロジェクト3

指定管理者による「清海堀ツアー」は、大変好評であったと聞いている。このツアーは、歴史史跡ツウや、令和5年1月から始まるNHK大河ドラマ「どうする家康」の影響を考えると、より一層集客できるツアーとなると思われる。是非とも、令和4年度は、このツアーの開催日数を増やす他、ガイドの育成についても取り組んでいただくことを期待します。

#### ・重点プロジェクト5

令和4年度は、愛知県と愛知県観光協会が連携して、デジタルマーケティングに関する調査の実施を予定しており、その成果（データ収集及び解析）を関係者と共有する予定であるので、岡崎市観光協会においてもそうした情報の収集ができるようお願いしたい。

コロナウイルス感染症が2年以上も続く中で、様々な企画行事が中止や延期となったため、今後についてどの様な対策をすれば開催できるかを検討することが必要。

コロナ後の岡崎市観光協会と観光推進課との役割分担と、観光協会の権限を明確にしてほしい。観光協会が岡崎市への観光客誘致に積極的に動いてほしい。

市長選後にこれまでの施策がどうなるか心配していたが、現市長も実現に向けて動いていると聞いているので、今までの施策等の実現の程度を検証して、遅くなったところのテコ入れをしてほしい。

#### 資料1 3 - 5 岡崎ニューツーリズムの推進について

最近、伊賀八幡宮近くの松應寺界隈が、昭和レトロを楽しむ若者・高齢者の話題になっている。岡崎城から伊賀川を經由して伊賀八幡宮を回遊するルートにあり、新たな観光的賑わいを作り出すには注目すべき地域。

観光以外にも、高齢者（戦時中の生まれから昭和30年代前半）にとっては、「回想法」に好適地。空き家を利用した「回想法」は研究者にとっても、老人ホームのリクレーションにも活用できる。

問題点は、観光推進課だけでは解決できない「空き家問題」。しかし、市役所の担当部署が協力し、解決する価値があると考える。

基本計画アクションプランには「分析する」「進化する」「演出する」「発信する」「招く」の分析視点はあがあるが、「街づくりから新たな観光価値を生み出す」視点があってもいいと思う。この例が2 - 2だろうか。

#### 資料2 重点プロジェクト4 東部エリアの観光地化の推進に付加したいプラン提案

高度経済成長期から50年間に積もった社会的矛盾（空き家、耕作放棄地、

限界集落化など)を、地区の人々・NPOの知恵も動員し、観光推進の視点から、地域全体の自立に向かう方策を考えることが重要。

観光の視点から地域の自立化を推進するために、まず、働き手確保が重要。空き家の一部は退職後就農希望者、若い就農希望者に無料開放し、耕作放棄地も開放する。畑作物を買い物難民・子ども食堂に配達し、食堂農産物売り場で販売できる仕組みづくりも計画成功のカギとなる。畑作地は家庭菜園として市民に開放することもでき、観光資源となる。

空き家は一定の場所に分散的・集中的に移築し、「茶屋・農産物売り場・弁当屋かき氷屋」「縁日商店の村」「手作り品店」「山里ホテル」などに再利用し、賑わいの拠点とする。

菅生川の源流である本宮山は地形的にも降雨に恵まれ、豊富な水量を利用して、脱炭素社会をアピールする農村の新風景として、用水路に「水車発電」(岐阜県石徹白に設置されている)を大量に設置する。電力の地産地消の先進地域として学びの観光にも役立ちます。SDGSの田園風景として水車という新しい要素が加わる。

神水をペットボトルに入れて東海地方に販売する。ペットボトル(シール)には、神水の宣伝のみならず、岡崎東部地域の魅力を添付する。無料の水が利益を生み出し、この地域の振興基金として活用できる。等々、以前にも提案しました。「観光推進の視点から、地域の自立化を図る」ことが、観光推進の重要な目的であろうと考えます。「持続可能な地域生活を意図的に作る」ことが観光戦略と考える。

新型コロナ禍で、身動きが取り難い中で、できる範囲で基本戦略に基づき施策を遂行されていると感じた。特にプロモーションも、東海オンエアの人气が非常に高く、コロナ禍で個人旅行の成果は、宿泊業の立場で直に感じられました。庁内での横の連携(観光推進課以外)の部署の取組が見えづらいので、わかりやすくなると良いと感じる。次期もプロモーションは派手にPRをお願いする。

#### 【資料1・2】について

昨年度の観光白書にもあったが、たくさんの成果・結果があり驚いた。ただ、私の勉強不足なのか、知らないプロジェクトがたくさんありとても残念だった。

コロナ禍で実施できなかった事業も多くあったが、実施できたものは参加もしたかったし、お手伝いできることがあればボランティアも出来たかとも思っている。

観光推進課のTwitterをもっと早くに知っていれば。と思った。丁度まちが

変わる時期を共有できるように、市内のいたるところに QR コードなどあればとても楽しいと思う。興味をもってリツイートしてくれる方々も多いと思う。

また、東部エリアの自然や農業に加えて、領家片麻岩を利用した、石垣、猪垣もとても見どころがあり以前猪垣サミットも行われた地でもある。使わない手はない。宮崎地区はまちづくり協議会も活発でいろいろと協働してくれるところだと思う。

また、愛知産業大学は留学生も多く、母国の親族や友人を案内したいと思っている学生が多くいると市長の公聴会で言っていた。これも通訳も含めて一緒にやれたらとても間口が広がると思う。学生たちはとても熱意を持っている。

アフター大河、アフターコロナで大河ドラマの聖地巡礼だが、Facebook の「どうする家康」ファンのグループが既に立ち上がっており、浜松市や周辺市町村で連携をとりとても投稿が多い。地元の歴史愛好家の方々が投稿しているようで、もしかしたら市の職員の方かなと思う投稿もある。よろしければ、グループにご招待させていただく。

オカザえもんの茶色いグルメも名前がとても良くクスッと笑ってしまう。岡崎茶色としてとても期待します。三河木綿や何か布のようなもので茶色があるとお土産にもなると思う。お土産を入れるエコバッグが茶色とか。個人的には味噌で染めたような色だと。受けないか。

#### 資料 1

コロナウイルス感染症、緊急事態やまん延防止の中でアクションプランについては大まかに達成できていると思いますし、他市に比べてもこの時世でできることを着実に進めていただいている各部署に感謝申し上げます。

##### ・ 2 - 7 観光に便利な二次交通の整備

民間バス路線補助をはじめとする市内観光の交通手段について

大河ドラマの影響で観光客の増加に伴う寺社、仏閣を結ぶ周遊コースの東岡崎の発着による市内周遊ルート確保をお願いしたい（朝 9 時から夕方 3 時くらいまで）小型バス、ハイエースクラスで常時時刻表運行できる交通システム。岡崎北部の交通網の弱さが課題ではあると思う。

やはり受け入れ側の施設、市民の理解が必要になるため、駐車場不足は課題となることが予想され、市民の協力を得て、軒先パーキングシステム計画など、大変ありがたいと思う。ただし、予約の煩雑化、駐車マナーのトラブル等で私有地を貸す方への迷惑問題がないようにする必要があります。現在も花火大会などイベント開催日の公道への違法駐車、私有地への迷惑駐車による近隣住民からの苦情をよく聞きます。この繰り返しでは、気持ちよく地元の方がお祭りやイベントを楽しむことができません。このことから観光事業に対する怒りや無関心、反発を地元の方が感じないようにしていくことも重要課題ではな

いか。同時に自転車については交通マナーの問題、自転車用のPの充実も課題。

・基本戦略4 岡崎を発信する4-2 フィルムコミッションの推進

「ロケ地めぐり」を今後してくれるようなドラマ＝視聴率が高めなテレビ、映画を誘致できれば良いと考える。たとえば「名古屋行き最終列車 メーテレ」などでは、八丁味噌が舞台になりましたが、限られた「ロケ地」だけで市民の方もあまり知らない部分が多い。ただし、コアなファンだけのロケ地では経済活性化とはいかない。その意味では大河ドラマの影響はどのようにあるのか楽しみである。

資料2 オリジナル観光プロモーションについて

・戦国無双およびアイアンキャッスルのタイアップ後の観光誘致結果が知りたい。

・東海オンエアの配布グッズばかりでなく、経済再生には市政といえども、無料配布はやめたほうがよいのではないかと（観光協会にしても同じ、サービスも有償にすることにより、多方面に向けた予算化が可能。

（議題2） 令和4年度策定の計画について【資料3、4】

令和4年度において、現在の観光基本計画を見直し、新たな計画（または戦略）を策定いたします。

新型コロナウイルスの蔓延、大河ドラマ「どうする家康」の放送決定など、本市観光行政を取り巻く状況が、通常時から大きく変化しています。本市としては、このような状況を踏まえた新観光基本計画（戦略）としたいと考えております。

資料3、4を御覧いただき、新計画についての内容、策定までの流れ等に御意見をお願いいたします。また、大河ドラマ「どうする家康」を契機として、地域経済の活性化等の目的を達成するため「10の戦略」を実施することとしました。各事項、戦略の詳細について御意見ください。

なお、令和4年度の委員会にて、新計画についての御意見をいただく予定です。委員会の開催月・内容（予定）は資料3「4 策定までの流れ（令和4年度）」及び資料4のスケジュールにて御確認ください。

大河ドラマ - ドラマ館を中心に、観光客を街にひろげていく方策が必要

・飲食が地域への消費を拡大させる。そのため、名古屋めし的なもの、岡崎でしかたべられないもの、その地の人がよく食べているものを開発・整理しプー

ムを創り出しておく必要がある

- ・ゆかりの地めぐり+（これが大事）が必要。ゆかりの地だけでは広がりにかけるそのための一方策としてロケの誘致をおこなう。スタジオ撮影が多いだろうが、放映後のロケ地めぐりマップを作成しておき放映後すぐにWEBアップできるようにしておく。

- ・ナイトタイムエコノミーについては、岡崎に無理に泊まらせることに固執しない方が良い。名古屋と名鉄で30分の距離であり、宿泊施設の多いところに流れる可能性が高い。そうと割り切れば、20時くらいまでの滞在機会をどうつくるかと考えた方が現実的ではないか。そこで夕食は岡崎でと消費を促したい。夕景はないか、夕方の賑わいづくりはできないかである。

- ・夜活は大都市に合わないところがある。そのため。朝活を考えてはどうか。大樹寺での勤行参加、朝の膳を管主と囲むなどの体験プログラムはどうか

### 資料3 - 1

- ・新観光戦略について

令和4年11月1日に開園する「ジブリパーク」に関して、愛知県内の魅力を、日本全国を始め世界中に広める絶好の機会である。このことは、岡崎市においても同様であるので、ジブリパークから岡崎市内への周遊ツアーの造成等、NHK大河ドラマ「どうする家康」と同じく取組みを検討すべきと思う。

### 大河ドラマを契機とした施策について

- ・昔は路面電車が走っていたことが懐かしく思う。観光客向けのオープン車両（バス）や人力車があると良い。

- ・ロケ弁の開発。

- ・家康公が好んで食べた地元食材を使った弁当の作成と、ゆったりとその弁当が食べられる景観が楽しめるスペースの確保。

- ・岡崎市は豊富な自然環境あり、現在も中山間地域ではロードサイクルを楽しむ人が多いことから、サイクリングロードを整備して市外や県外からの誘客と競技大会の誘致。

- ・地元農家と協力して、男川河川敷に「貸農園」を設置して農産物の栽培とデイキャンプができる施設の設置。

岡崎市東部（アウトレットとその周辺）の観光施設として開発の見通しと計画の実現に向けて動き出すため、関係者との意見交換をすることが大事と思う。

伊勢のおかげ町、犬山城下町など食べ歩きができるなど、「賑わいの町、賑

わいの小径」「散歩的に回遊できる観光ルート」を創造することが、一時的な「家康ブーム」に終わらせないポイントと考える。

最初に記した松應寺界限は「伊勢のおかげ町」になる素材がある。

リバーフロントは、菅生川に伊賀川も含めて構想し、「川遊び（カヌー体験）」「水遊び（伊賀川に飛び石・川遊びできるアドベンチャーリバー）」「食べ歩き（岡崎グルメの堤防部の売店と川沿いの日陰・椅子常設）」「買い物」「BBQ 広場」などにぎわいの仕掛けが必要。もちろん、繰り返す川の氾濫にも適応する施設・設備にするべき。「BBQ 広場・トイレ」などは防災の視点も必要。市民からのアイデア募集も必要。

新型コロナ禍で先の見通しが立てづらい中、策定ももう少し早く取り組めると良かったかと思う。「どうする家康」に向けて令和4年度からスピーディーに10の戦略を含め、進めていけたらと思う。夏からロケが始まるかと思う。記念、メモリアルとなる出来事をたくさん作り、ドラマ期間中の目玉になるような、又、今回キャストも若い世代の方々を取り込みやすいと思うので、時代の流れと、ウィズコロナ（国内から）を基軸に戦略を考えていけたら良い。

#### 【資料3・4】について

どれも、大切な施策だが、特に資料3-2 のどうするおもてなし交通では、なんとか名鉄さまにご理解いただいて、中岡崎と岡崎公園前駅を総合駅にしてほしいと思う。まずは車を持っていない人も岡崎に来てほしい。岡崎八丁駅とするのは攻めすぎだろうか。八丁味噌駅ではないところがミソ。

どうする岡崎は、名鉄、愛環、からのJRで豊田、刈谷、安城、西尾をつなぐ松平繋がり拠点になって欲しいと思う。イメージは、みんなでみんなのいいところを引き出すのが目的。岡崎市から近隣都市もまわり岡崎市まで帰ってくる。お寺も回るし神社も回る。歴史もわかるし川あそびもする。花見もするし花火もみる。世界のトヨタ自動車の本社も見に行ける。日本のデンマークも見に行ける。とにかく岡崎に来てみてほしい。岡崎に来たらバス・タクシーの半日、一日乗車でめぐる。車いすでも遊べたらもっと楽しい。若い人には自転車で行けるところまで行っていただく。額田もサイクリストが集まるように地元の方々が知恵を絞っている。ロードタイプの高級レンタサイクルも楽しい。

#### どうする周遊観光 + どうする地域個店

市内の回遊が地域個店の売り上げ向上につながる仕組みを導入する。

従来、名鉄キャンペーン、愛環キャンペーン、家康公スイーツキャンペーンなど、期間限定の活動はあるが、恒常的な取り組みはなされていない。鉄道事業者だけでなく、マイカー客、団体客などあらゆる来訪者が特典を得られるよ

うな仕組み、体制を構築することを、新戦略で取り組む。

- ・個人客に対して、二次交通の充実が欠かせない。土日祝限定で小型の周回バスを導入し、予約なしでも利用できるようにする。

- ・二次交通の充実

  - 市内の鉄道・バスの日乗車券を造成、販売する

### 3-1 新観光政策に向けて

一番は1年だけの観光集中時期だけでなく、アフターが一番肝心であり、ドラマにこだわらなくなったときの恒久的に観光ができるルートおよび名所を画策、画定させることがポイントではないかと思う。単なるブームで終わらせない観光土台作り。

歴史語り人、ボランティアガイドの皆さんの功績は多大なものがある。すべてに言えるが「家康」に興味のない方、「観光」には反対という方も市民の中にはいる。この温度差をどう埋め合わせていけばよいのか。この方たちの意見もすり合わせて聞かねばならない担当部署各所には頭が下がる。皆様の尽力で観光が支えられている。

岡崎市は他都市と比べても、企画やイベント、事業（乙川リバーフロント計画、籠田公園の整備、若い力によるイベント企画、グルメ、ラッピング電車、等や今回のアクションプランに対しての取り組み等大変しっかりしているし、かつ実現もさせていると思う。しかしながら、「岡崎は発信が下手だから」「岡崎は観光に対して何もやらないから」という声も聴く。このような方は自分から情報を探したりせず、人の意見に耳を傾けられない方で、自らシャットアウトしているのですが、少しでもこのような考えを少なくしていく＝高齢者の方々への情報発信の仕方を画策していくことが大切ではないだろうか。市政だよりの巻頭特集はわかりやすいが、地域コミュニティ、例えば回覧板の有効活用等、そこまで詳細でなくても、岡崎どうするニュースということで、紙一枚に、取り組み、イベント、さまざまな情報をわかりやすく簡潔にしていくことで、SNSが使えない方々への情報発信をより密なものにできると思う。

また「どうする家康」後のブームの終焉を見越して、徳川、松平だけにこだわるのではなく、たくさんの旧跡、歴史上の旧跡も古代から近代までで点在している岡崎をどの地区からも見どころが一つあるように整備するのも重要である。（ただ経済を回す規模となると難しい課題ではあるが）近代遺跡、遺産にもこだわると面白いのではないか。

名鉄拳母線（昭和48年まで大樹寺から豊田を走っていた電車）駅跡（大樹寺バスターミナル）を駅に模して、バスの周遊を活発にし、観光客への興味をひかせる方法等（比較的旧大樹寺駅跡から、遊歩道として廃線跡が残っているのもファンにとっては感慨深い）



例 電車通り（市内電車が走っていたころの案内図等、康生周辺や明大寺、岡崎駅までたどれるコースとして案内板設置等）

例 中心部の六供浄水場跡の配水塔を土日祝開放して、浄水場公園でキッチンカーのおもてなし。ウォーキングイベント。

籠田公園からも近いので、桜の城橋からの周遊コースの一部として充分活用できるのではないかと。近くの甲山一号墳の見学コース、甲山寺をめぐる等。

将来的には、これらの史跡もつなぎながら、中心部、北部、西部（矢作地区）や東部（額田地区）をはじめ、核となる拠点を東岡崎駅だけでなく、美合駅出発、本宿駅出発、矢作駅出発等、各鉄道駅からの、歴史的な史跡の掘り出し、今後発展する岡崎駅周辺、愛知環状鉄道の各駅からのイベント的な史跡めぐりではなく、恒久的に存続できるコース整備も今後必要になるのではないかと。ただ1日でまわらせるのではなく、2日、3日とコース、拠点別でわけて訪れることができる魅力的なまち作りを画策。ただし、交通網の未発達により、ウォーキング中心での周遊が足が遠のく要因にもなっていることも否めない。

いずれにしても、新しい取り組み（自転車レース、ラリーイベント等）たくさんの方の協力で、籠田公園や桜の城橋上でのイベントを行うたび、コロナ禍にもかかわらずたくさんの方々が来岡してくれている。企画担当各所の皆様の尽力に感謝する。特に流れが変わりつつあるのは、籠田公園周辺に若い力が戻ってきていることを顕著に感じる。地元にはお互い迷惑をかけないように、このように活発に市民で新たな岡崎市を創っていけることを祈念している。

### （議題3） その他

本市観光について、幅広い御意見をお願いします。

#### 次期観光戦略

- ・次期観光戦略は短期と割り切っている。これは分かりやすい
- ・短期で考えれば、今のキャンプブームに乗っかることはできないか。コロナを契機として人ごみでなく、自然の中に身をゆだねると考える消費者が多くなってきた。ポストコロナ対策と割り切って考えてみてはどうか。

岡崎市観光基本計画は、岡崎市内の観光産業の推進を基本とすることは言うまでもないが、2年にも渡るコロナ禍により、観光に対する考え方が新しくなっている。観光は市内だけで完結するものではないので、県内・近隣市の観光資源も上手く活用できるような観光戦略とすべきと考える。

そうしたことを考えると、観光基本計画推進委員について、県内地域全般に

わたる意見を盛り込めるよう構成員を増やすことはできないか。

コロナのため、本来ならば、新観光戦略をもっと早く検討開始すべきであったと思う。

岡崎市観光協会に、観光誘致に向けて積極的に動いてほしい。

ここ近年の岡崎市のプロモーションはとても良いと思う。若い方々の好まれるコンテンツの作成でさらなる進化を遂げて、この「どうする家康」が岡崎の新しい未来を創るべく、新しいプロジェクトを推進していきましょう。

どれもこれも、すでにご存知とは思いますが、思いついたままお知らせさせて頂く。

岡崎百景の会の川辺さんが「どうする家康」に合わせて家康公×百景をめぐる散歩コースを50コース作ってくださったので観光協会の粕井さまにはメールにて送信済み。もしよろしければ観光推進課のアドレスにも送付させて頂く。家康公も生きていた時はその目で岡崎を見ていたと思う。今の私たちも毎日いろいろな想いをもちながら景色をみている。それが岡崎百景。今の岡崎市民のしている景色も見て頂きたい。